

「だれもがつながる町に」 ～みんなでつながり隊～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能、情報活用能力、コミュニケーション能力、協働性、よりよく生きようとする力

令和3年1月27日（水）第5校時 男子9名 女子9名、特別支援学級（知的） 男子1名 計19名

研究主題

主体的に学び 表現する児童生徒の育成～自分や集団の考えを発展させる「学び合い」の授業を通して～

1 児童観

児童は、3年生の総合的な学習の時間に、美土里の地域の水資源を中心とした自然環境をテーマにした活動に取り組んできた。自分たちで調べたことを発表する学習を通して、感じたことや気付いたことを表現したり、情報収集をする力などを身に付けたりしてきている。しかし、話し合いを基に課題設定をする力や、集めた情報を整理し自分たちで比較したり関連付けたりして考える力、他者と協力して学びを深める力などは、まだ十分身に付けているとは言えない。

4年生になって、美土里町についてさらに考えていく中で、「だれもが安心して暮らせる町に」を大きなテーマとして、災害や防災について学習した。その後、様々な福祉施設を見学し、高齢者や障害をもっておられる方々ともつながる美土里町にするために自分たちができることを考え、実践していく活動を予定していた。しかし、昨今の状況下で交流することが困難となり、児童が楽しみにしていた見学や交流会は実施できなくなったため、ゲストティーチャーとしてお招きし、教えていただくことを通して、障害をもっておられる方々ともつながるために自分たちができることを考え、発信したり実践したりする活動を予定している。

2 単元観

児童を取り巻く社会にはさまざまな人々が生活しており、すべての人が幸せになりたいと願っている。みんなが幸せな生活をするためには、一人一人の違いを認め、相手を分かろうとし、相手のことを考えて接していくことが必要である。このことに気付くために、障害者作業所等と連携する。作業所の様子を知ること、実感するための体験、調べる活動を通して、人々の支え合いの大切さに気付くであろう。しかし、一方で、児童はこれまで考えたことがない課題にも直面することになる。児童はそこから、だれもが安心してつながる美土里町にするために自分たちができることを考え、発信することにより、自分の課題に対して自ら進んで解決する力を付けるとともに、それが学習意欲につながり、これからの自分の生き方につなげていくことができると考える。

3 指導観

指導に当たっては、まず、防災の視点から学習に入る。1・2学期の学習を想起していく中で、避難する際に困難が予想される高齢者と障害のある方と自分たちとのつながりに着目させることが可能になると考えた。また、障害者福祉施設との連携で、このような状況の中でもお互いの「知ってほしい」「分かりたい。」を大切にして学びを深めていく。不自由さを体験することで、人々の支え合いの大切さに気付いたり、身の回りにあるバリアフリーやユニバーサルデザインについて考えたりできるようにしたい。またそれを発信していく準備段階では、内容を吟味するための話し合いをする場を設定することで、他者との協働性を身に付けさせていきたい。

4 単元の内容と目標

単元目標		地域の障害者、福祉施設の方々との出会いや調査活動を通して、一人一人がかけがえのない存在であり、誰もが幸せに生活できることの大切さや、そのために、人々が協力し合うことの大切さに気付くことができるようにする。また、誰もが安心して笑顔で暮らせる町にするために自分たちができることを考え、発信したり実践したりすることができる。
	育成すべき資質・能力	評価規準
知識及び技能	知識・技能	①美土里に住む人々の素晴らしさ、それに関わる人々の地域を大切にしたいといった願いと工夫が分かっている。 ②比較・分類・関連付けた情報をもとに一般化や構造化をするなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている
思考力、判断力、表現力等	情報活用能力	①福祉施設の役割や実情、地域の福祉に関する課題を調べるために必要な情報を集めている。 ②集めた情報を比較・分類したり、関連付けたり、修正したりしながら検討し、解決や探究の方法を見付け出したり表現したりしている。
	コミュニケーション能力	①相手や目的に応じた表現方法を選び、友だちや地域の方に伝えたいことを伝えている。 ②積極的に地域の障害者、福祉施設の方々に関わろうとしている。
学びに向かう力、人間性等	協働性	①友だちと進んで関わり合いながら、協力して課題を解決しようとしている。 ②協働して学ぶ中で、よりよいものを生み出すことのすばらしさに気付いている。
	よりよく生きようとする力	①自分が調べたいことや新たな課題を見付け、課題解決に向けて、粘り強く取り組んでいる。 ②活動を通して学んだことを振り返り、地域や家庭の中での自分の生き方について目標をもっている。

5 第2小単元の指導計画（全27時間）

[知識・技能：知，情報活用能力：情，コミュニケーション能力：コ，協働性：協，よりよく生きようとする力：よ]

月	学習過程	学習活動	児童の思考の流れ	児童の探究を支える手立て	評価
1	課題の設定 情報の収集	社会福祉法人施設「ふれあいの家たんぽぽ」について知ろう ○「だれもがよりよく関わり合う」ということについて考える。 ○身の回りにあるだれもが安心してくらせる便利なものを見つける。（1） ○家庭にあったものについても交流し、分かったことを伝え合う。（1） ○地域にある社会福祉法人「ふれあいの家たんぽぽ」施設長三上さんからの手紙を受け取り、「たんぽぽについて、障害についてもっと知ってほしい。障害をもった人と接してほしい。」という願いを知る。（1）	- 自分たち子供や大人、お年寄りの方や保育園児、障害をもっておられる方など、みんなが安心してくらせる町になったらいいね。 - 障害のことってよく知らないかも。 - 私たちは今自分のことは大体自分でできるけれど、そうじゃない人もいるんだ。 - 身の回りにもたくさんあるんだね。 - ぼくたちにとっても優しいね。 - 建物は見たことがあるけど、何をするとこかな。 「たんぽぽまつり」に参加してソーランを踊ったよ。 「たんぽぽ」についてもっと知りたいな。	「だれもが安心してくらせる町に」の学習で「だれもが」にあたる人々について考え、いろいろな考えが出たことを想起させる。 地域の大人 高齢者 小学生や中学生 保育所の小さい子 赤ちゃん - 点字について知り、体の不自由な人に優しいものや便利なものを見付けていく意欲につなげる。 - 実際に校内を回ってみることでもっと探してみようとする意識をもたせる。 - 児童が「問い」をもって学習にのぞむきっかけとなるよう手紙の内容を事前に依頼する。	コ② 協①
	課題の設定	○自分たちのもった疑問について話し合い、「たんぽぽ」の施設長三上さんの訪問に向けて目的意識をもつ。（1） （本時）	- 利用者の方はどんなふうに仕事をされているのかな。 - 利用者の方のために工夫された道具にはどんなものがあるのか知りたいな。	前時に学習したことや自身の経験と結び付けて考えることができるよう、個人のファイルや掲示物を活用させる。	コ①
2	情報の収集 整理・分析 振り返り 課題の設定	○地域にある社会福祉法人「たんぽぽ」の施設長三上さんのお話を聞く。（1） ○お話を聞いたり、ビデオを視聴したりしての気付きやもっと知りたいことを交流する。（2）	- 施設利用者の方は、細かい仕事を一生懸命されているな。 - スタッフの方は、一人一人の方が働きやすいように支援をされていたよ。 - 障害のことについて、もっと知りたいな。	- 気付きや分かったことを記録できるワークシートを準備する。 - 施設長さんの話や質問、実際の作業の様子を視聴を通して、「たんぽぽ」について知る。 - もっと調べてみたいことや疑問に思うことを話し合い、次の計画を立てることができるようになる。	情① 知① 協① よ①

月	学習過程	学習活動	児童の思考の流れ	児童の探究を支える手立て	評価
		障害についてもっと知ろう（１２）			
	情報の収集	○障害のある方の生活を知るために、アイマスク体験や車いす体験をする。（２）	・ちょっとした段差でも怖さを感じるね。 ・友だちが腕をもってくれて嬉しかったよ。 ・小さな段差でも車椅子は乗り越えにくいんだね。	・自分の生活と比べながら目の不自由な方の生活について考えられるようにする。 ・体験を通して体の不自由な方の生活について気づきを深めさせる。	情① コ②
	整理・分析 振り返り	○アイマスク体験、車いす体験での気づきをまとめ、お互いに交流する。（２）	・盲導犬のことを聞いたことがあるよ。調べてみたいな。 ・障害のことについても、もっと調べてみよう。	・友だちの意見をしっかりと聞き、お互いの考えの違いを分かり合いながら話し合いを進められるよう促す。 ・第一次で調べたことや体験したこと、施設長さんのお話を通して、もっと調べてみたいことや疑問に思うことを交流し合い、次の計画を立てることができるようにする。	協① 情①
	情報の収集	○自分たちの課題解決に向かって、調べ方やまとめ方を話し合い、活動の見通しをもつことができる。（１）	・シャンプーやリンスにも工夫があったね。もっと身近にいろいろな工夫があるのではないかな。	・インタビュー、図書、インターネット等を利用して課題が追究できるよう支援を行う。	情②
		○課題解決に向かって、グループで協力しながら自分たちが考えた方法で追究する。（２）	・図書の本などで調べたことをお互いに交流し合おう。	・ワークシートを活用して毎時間の課題を明確にする。 ・課題解決のための情報を収集するという意識をもたせる。	情② 協②
	整理・分析	○集めた情報を整理・分析する。（１）	・集めた情報を整理しよう。 ・たくさん調べたけど、本当に必要か絞り込んだ方がいいね。	・集めた情報が目的に合っているものか、抜き出す部分は適切かどうか等についてグループで吟味する時間を確保する。	コ① 知②
	まとめ・創造・表現	○分かりやすく伝える方法を考えながら発表の準備をする。（２）	・伝える方法をグループでしっかり考えよう。	・国語科で身に付けた「話す力」「聞く力」を発揮できる場面になるよう意識付けを図る。	よ① 協①
		○調べたことや思ったこと、考えたことを自分たちが選んだ方法でまとめ、学級の友だちに発表する。（１）	・心のバリアフリーについて自分たちなりに考えたよ。 ・考えたことを伝えていききたいね。 ・「たんぽぽ」のスタッフさんを学校に招いてお礼の会をしたらどうかな。	・発表後に、障害のある方との接し方やバリアフリーの考え方について全体に投げかけ、全体や個人で考える場をもつ。 ・障害のある方の立場に立ったり、自分との関わりを考えたりしながら、共に生きていくために大切なことは何かという視点で考えさせる。	コ① 協②
	振り返り	○調べて分かったことを基に、自分たちにできることは何か、一番伝えたいことは何かを考える。（１）			知① よ②

月	学習過程	学習活動	児童の思考の流れ	児童の探究を支える手立て	評価
3		自分たちの学びを、家族や「たんぽぽ」の方に知らせる会を開こう。(6)			
	課題の設定	○自分たちの学びを「だれに」「どのように」伝えるかを考える。(1)	• せっかく来てもらうのだから、学んだことを伝えて安心してもらいたいな。	• 思考ツール（ピラミッドチャート）を活用しながら、全員が自分事として話し合いに参加できる場を設定する。	協②
	情報の収集 整理・分析	○内容を考えるために、思考ツールを活用して考えを整理・分析する。(1)	• 学んだこと、感じたことを伝えていきたいな。	• 積極的に関わろうとする姿を評価する。	コ①
	まとめ・創造・表現	○友だちと協力しながら、お礼の会の準備を進める。(2)	• アドバイスをもらったおかげで中身が充実したよ。 • バリアフリーについても改めて考えないといけないね。	• 準備の途中段階で中間報告会を開き、内容について友だちからのアドバイスをもらう場を設定し、改善点は修正していく。 • 相手意識、目的意識を常に意識させて準備を進める。	協① ②
	実行	○これまでの学びを生かして、「たんぽぽ」の方を招待した会を行う。(1)	• 安心や希望を感じてもらえるような会にしよう。	• これまでの学びを生かした会になるよう、相手意識・目的意識を想起させる。	コ① ②
	振り返り	○この活動を通して学んだことや身に付けた力について振り返る。(1)	• 今回の活動だけで終わらずに、これからも「今、自分にできること」を考えながら生活していきたい。	• 学んだことと併せて、総合的な学習の時間で発揮できた資質・能力についても振り返らせる。	よ① ②
		これまでの学びを振り返ろう(2)			
	振り返り	○お世話になった方にお礼の手紙を書く。 ○体験や調べ活動を通して気付いたこと、感じたことを振り返る。(2)	• 地域にはいろいろな方が生活していることが分かったよ。 • 人と人とのつながりが大事ということが改めて分かった。 • 家族だけじゃなくて、地域の方ともつながっているんだね。 • 美土里のつながりっていいな。 • これからも元気よく挨拶をしたりして触れ合っていきたい。	• 地域には、豊かな生活の知恵や技をもった方が支え合い、つながり合って生活しておられることなどを再確認する。 • 自分の問題として、できることを具体的に考えていけるようにする。 • 地域の中で役に立っている自分自身を感じ、振り返りができるようにする。	知① よ① ②

6 本時の学習

(1) 本時の目標

社会福祉法人「たんぽぽ」について、もっと知りたいことや調べたいことなどを整理し、課題を具体化する。



(2) 本時の評価規準

これまで学習してきたことや、自身の経験を基に意見を出し合い、自分の課題を明確にしている。

【コミュニケーション能力①】

(3) 学習の展開 (第4時／全27時間)

学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ◆努力を要する状況と判断した児童への指導の手立て	★資質・能力の評価 (評価方法)
1 「たんぽぽ」施設長三上さんからの手紙の内容を振り返る。 ・「だれもがくらしやすいことについて考えてほしい。」と言っておられたな。 ・「もっと障害についても知ってほしい。」と言っておられたな。 2 本時のめあてを確認する。	○お話やメッセージを振り返り、障害者福祉に携わる方の願いを受け止められるようにする。 ○「だれもが安心してらせる」ことを具体的に考えたことを想起させ、今後の学習に生かしていこうとする意識をもたせる。 ○施設の様子、不自由さを助ける道具などの写真を提示し、もっと調べてみたいことが具体化するようにする。	
【めあて】「たんぽぽ」について、知りたいこと、調べたいことを考えよう。		
3 知りたいこと、調べてみたいことを考え、付箋紙に記入する。 【個・グループ】	○本時で発揮させたい「コミュニケーション能力」について触れ、意識づけをする。	
予想される児童の反応 ・「たんぽぽ」の建物にはどんな工夫があるのか。 ・スロープもあるのかな。 ・何人来られているのかな。 ・たくさん缶があるけれど、どうするのかな。 ・利用者さんは、どんな仕事をされているのか。 ・たんぽぽには、どんな障害をもった方が来られているのか。 ・仕事をしてお金はどのくらいもらえるのか。 ・「お助けグッズ」(できないことをできるようにする工夫された道具)は他にどんなものがあるのか。 ・スタッフの方はどんな思いや願いをもって仕事をされているのか。 ・「たんぽぽ」のような施設は、他にもあるのか。	○これまでの学習やお手紙の内容を踏まえ、知りたいことや調べてみたいと思うことを発言させる。 ○児童の発言をキーワードとして板書し、これを視点として質問事項へのイメージをもたせる。(「スタッフの方について」「利用者の方について」「施設について」) ○キーワードをヒントに質問してみたいことを付箋紙に書かせる。 ○三つの視点にあてはまらないものもよいことを助言し、多様な考えを出していけるように伝える。 ○友だちと相談したり、掲示物を見たりしながら考えるように促す。 ◆グループの友だちと考えを交流し合うことで、さらに考えを広げることができるようになる。	

4 ホワイトボードに付箋紙を貼りながら交流する。 【グループ】 5 自分が調べたいことを選択し、ワークシートに書く。【個】 6 本時の振り返りを行うとともに、次時の学習に向けての見通しをもつ。	○ホワイトボード上で思考ツール（Xチャート）を用いて視点別に付箋紙を貼ることで、お互いの考えの共通点や相違点分かるように可視化し、交流する場を設ける。 ◆グループでの話合いに入りやすいように学習状況を見守りながら児童同士をつなぐようにする。 ○他のグループのホワイトボードを見る時間（ウォッチングタイム）を設定し、様々な疑問に触れさせる。 ○自分が記入した付箋でなくてもよいことを伝え、自己決定を促す。 ○なぜそれを調べたいのか理由を書くことで、自分の課題を明確にする。 ○1～2名の児童に、記入した疑問とその理由を全体に発表させ、共有化を図る。 ○児童の振り返りをもとに、次時の学習（「たんぼぼ」施設長三上さんからお話を聞く）につなげていく。 ○質問を伝えていくことを伝え、次時への意欲につなげる。	★これまで学習してきたことや、自身の経験をもとに意見を出し合い、自分の課題を明確にしている。【コミュニケーション能力①】
振り返り例 ・聞いてみたいことを進んで書くことができました。友だちの考えはわたしが考えなかったことだったので、そういう疑問もあるんだなと思いました。 ・〇〇さんと調べたいことは同じだったけれど、その理由が違っていたので調べたことを交流するのが楽しみです。 ・できにくいことができるように工夫されている「お助けグッズ」についてもっと知りたいです。		